

踏 み 跡 < My mountains >

丹沢	大山の初日の出	No. 025
----	---------	---------

昭和38年12月31日

どういう連絡の行き違いだったのか、確か5,6人で行くことになっていたはずなのに、約束の時刻に新宿駅に集まったのは私と村越だけだった。何時間待っても誰も来ない。大晦日の雑踏の中でキョロキョロしているうちに終電になってしまったので二人で飛び乗った。

昭和39年1月1日(曇りのち晴)

まだ除夜の鐘の余韻が深々と響き渡る伊勢原駅に降り、歩き出した時は元旦の0時55分。

バス道を一時間半で大山町、麓のバスの終点。

ここから長い長い石段を登ること二時間半、途中の茶店には早くも汁粉の味に酔っている人が一杯いる。

大山頂上(1252m)の阿夫利神社(あふりじんじゃ)に5時到着。老人からこどもまで、初日の出を拝まんとする風流人(?)が100名ほど集まっている。

大山は別名雨降山(あふりやま)と言われており、雨乞い信仰が始まりだったがそこから端を発して五穀豊穡・商売繁盛と御利益が発展変形してきたと聞いた事がある。江戸の人口が100万人だった時代に、大山詣りの参拝客が年間20万人いたというから驚く。落語「大山詣り」では参拝の後、金沢八景で舟遊びをしてから江戸に帰るとい筋書きになっている。江戸の人々ばかりでなく、信仰を兼ねた観光旅行だったようだ。阿夫利神社は崇神天皇の時代(3世紀後半~4世紀前半頃か?)に創建され、平安時代にはその存在が記録されている。

日の出前のひと時をインスタントラーメンで暖を取りながら過ごすうちに相模湾が薄明るくなり、江ノ島や三浦半島がぼんやりとその姿を現してきた。

6時50分、昭和39年の初日は赤くかすかに顔をのぞかせ、円い姿が段々顔を出すにつれて鉄を熱するがごとくに橙色から白色に変わり、水平線よりわずかに上るといつもと変わらない太陽となり、秦野盆地を照らし始めた。一点を凝視していた目をふっと休めると、反対の西側には真っ白に化粧をした富士山がまばゆいほどに勇ましく立っていた。

西に下ってヤビツ峠(761m)から蓑毛に下りて、バスに乗った。大秦野駅に正午過ぎに到着。

珍しく早めの帰宅になった。

左画像:昭和39年元旦の富士山(大山から)

以上



(修正・更新:2023年10月)